

## 平成 28 年度 第 2 回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日 時 平成 28 年 11 月 22 日 (火) 14 : 00 ~ 15 : 50  
場 所 おおぶ文化交流の杜 文化サポーター室  
出 席 者 委員 6 名・大府市 (田中・村瀬)  
事務局 (JCD 浅田・江口・山口 TRC 峯岸・坂本)

### 議 事 録

発言者

事務局 開会。  
司 会 おおぶ文化交流の杜も開館から 3 年半を迎えた。施設運営に関して、施設職員より課題や悩みもあると聞いている。今日は委員のみなさんから、忌憚なきご意見を頂戴したい。本日の前半は、平成 28 年度上半期の運営状況報告を、後半は次年度運営計画について報告後ご意見をいただく。

#### H28 度前期文化交流部門について事務局・浅田より説明

- A 委 員 スタジオの運用について、今まで無かったインターバルを設けたとの事。その後の運用状況はどうか。
- J C D 利用時間・料金は、大府市と相談して変更した。インターバルが出来た事で利用者の方にもご理解、ご協力頂き、清掃や片付け、準備出入り時間の問題も解消できつつある。
- B 委 員 8 月のホール稼働率が高かった件について、オリンピック効果であるか。
- J C D 今年は海外旅行が 107%と前年より伸びていた様子。ふれあいの路ではリオオリンピック応援イベントを開催した。
- B 委 員 大府市はご当地選手が多いので、影響があったのではないかと。  
司 会 文化交流部門のイベント企画においては、多岐にわたる事業が展開されたようであった。  
質問はあるか。
- F 委 員 今年度の目標として、28 年度の計画を追っていると思うが、前期 5 カ年計画の 3 年目が終わるので、ある程度この計画に対する成果をまとめないといけない。具体的にまとめなど、出来上がっているのか。
- J C D ホール稼働率目標である、80 ポイントを既に超えている。来年 1 月公演ではあるが、先日発売した「H ZETT M」は完売した。チケット販売自主事業においても、順調である。ただ、文化部門サポーター (育み隊) の参加者が伸び悩んでいる。
- F 委 員 受け手側に要請が届いているのか、調査が必要。人集めが大事である。

- J C D サポーター養成講座、企画運営講座を行っている。良い内容での講座を運営できていると思っている。
- F 委員 会議室の稼働率が上昇しているのは、施設関係者の利用が多いのではないか。
- J C D 会議室3については、会議室1より料金も少し安く、場所も分りやすい事から、人気の部屋となっている。施設関係者が利用する事は少ない。文化懇話会でも質問が挙ったが、アローブとして子ども連れ（幼児向け）の企画を8・9月と頑張った。採算は、年間通して当たり外れも加味し、計算している。12月のクリスマスコンサート、ドレクスキップスリップにおいては、内容はとても良いが売れ行きに苦戦している。
- C 委員 幼児向けの音楽が人気である。小学校中学校向けに何か企画できないか。子どもだけで観覧できると良い。「のぼるはがんばる」と連携したワークショップでは、8月の3日間通うのは大変だなと思った。演劇のワークショップとの説明であったが、イメージしにくかった。初めての人にどう説明していくのか、ハードルがあると思う。井草さんのギターコンサートはとても良かった。正面玄関で、映像を流していた事が効果的であった。とくにギャラリーの利用者、図書館利用者にアプローチが有効である。「井草さんの映像を見て、気になって家に帰って調べたらすごい人が来るという事が判った」という声もいただいた。
- A 委員 報告書内、まだ携帯電話の電波が悪い件改善されていないのか。
- J C D 報告書内の携帯電話の電波が入りにくいという件は、ホール控室の事である。現在各社電波の増幅機をつけているが、1社対応できていないキャリアがある。
- G 委員 外部との連絡の為、携帯電話を使用するという事ですね。
- A 委員 ホール控室内、トイレの小ささが3年目で出てくるというのはどうなのか。
- J C D 控室3にのみトイレが付いており、これまで室内のトイレの使用が少なかった様だ。
- A 委員 図書館部門と文化部門で企画開催が重なるなど、気になる点があった。
- J C D 月に1回ミーティングをしているが、連携ができていない。文化サポーターの方が、図書館のイベントに参加したいと言って困った事があった。
- B 委員 私達が企画した講座とかぶった。講座を行いたい日は、特に土日は集中してしまう。
- T R C 講師や会場の都合などもあり、講座のすべてを文化部門と別の日にすることは難しいが、調整を図っていく。

- B 委員 ゴールデンウィークは集客が難しい。缶バッヂイベントも参加人数が少ないからといって、やめずにやってほしい。家族でどこかに行けない子などの、救いの場所になる。劇団うりんこ公演では、学校等によく公演に来るイメージ、子どもからすると見慣れているのではないかと。ジョイントフェスティバル愛知とは何か。
- J C D いろんな館で高い経費を分担する事で、良質な公演を呼び込む事ができる。好評な海外作品など招聘にもつながる。
- B 委員 他の館も同じ公演をしているのか。
- J C D 「のぼるはがんばる」については、当館の入場者数が一番多かった。
- B 委員 文化デザイン塾（サポータークラブ養成講座）の活動について、聞きたい。
- G 委員 私が講師をしているので、説明します。受講生の方は、まず企画立案の基礎を学んだあとに、自分たち自身のアイデアを持ち寄り、さまざまな企画をする中で、今進めているテラスを使うイベントについては、屋外コンサートなので近隣へのあいさつ回りや騒音の状況などを調べてくれたりしている。現在2年計画で行っている。今期は企画の規模は敢えて抑え目にしている。また、閉館後の夜の図書館内で行うテルミン演奏などユニークな企画もある。塾生企画後反省点をふまえて、来年度はもう少し大きな企画ができるといいね、などと話し合っている。
- B 委員 今参加している人は、初めてなのか。
- G 委員 登録が長い人もいる。企画運営コースとフロントスタッフコースに分かれている。企画運営コースでは、自分で事業をやりたい人が多い。
- B 委員 これから増えていくか。
- G 委員 正直なところすごくサポーターの数がアップになっているか実感がない。

---

H28 運営計画図書館部門について事務局・峯岸から説明

---

- A 委員 託児の問題はどう考えているのか。
- T R C 図書館の無料の企画に、有料託児は高く感じる。入場料と対比される。
- G 委員 イベント中に騒がしい子どもがいたりすると、預けた親と預けなかった親では苦情になる。モラルの問題になる。
- T R C 託児依頼をする親から1000円の徴収をしても、図書館からも保育士に支払う経費がかかる。しかし子育て支援は充実させていきたい。
- J C D 貸館で行っている運動系のグループでは、託児室がいっぱいで会議室を代わりに有料で借りている時もある。託児は有料である。無料では責任がもてない。
- C 委員 親から離れられない子どももいる。個人差がある。

- G 委 員 託児の委託先はどこか。
- T R C ネットワーク大府さんに JCD と同じく依頼する。
- A 委 員 お母さんにとって（託児を依頼するかどうかの）判断は難しい。
- B 委 員 大人数頼まないと託児を受け入れないなど聞くが、どうか。
- T R C 少人数でも受け入れている。
- A 委 員 今後のイベント運営時には託児のあり方を考えていかなければならない。
- D 委 員 文化サポーターを増やす仕組みとして、図書館まつりのサポーターみたいに、日にちや参加する日数を決めて募るのはどうか。大きなイベントは、早めに日程が決まっている。年に1回のサポーターでもいいので、参加してほしい。学生は、大きくなってから戻ってくる可能性もある。
- C 委 員 北中など、積極的にボランティア参加している。
- D 委 員 現在のサポーターは、高齢者の多いイメージ。文化も若い世代に参加を呼びかける必要がある。
- C 委 員 中学生が手伝うイベントについては、短期や単発が良い。
- 司 会 何をお願いするのか。
- J C D 文化部門サポーター募集は、図書館から学ばないといけない。
- T R C 中学生のサポーターは、A 委員と C 委員がよくフォローして下さるので助かる。学生は、ある程度仕事を決めてあげないといけない。
- B 委 員 図書館サポーターとしてみると、グループによっては、高齢化している。
- G 委 員 希望は若い人に入ってほしい。学生ボランティアも大人になってサポーターグループに入って欲しいと思っている。  
D 委員には実績があるので、中学生を取り込んでほしい。デザイン塾今年のサポーター養成講座の企画運営コースには、高校生が参加している。テスト中でも来てくれて、おじいちゃんたちも喜んで、いつもより張り切っている。
- A 委 員 ステップアップの更にステップアップを期待している。
- 司 会 他はありますか。今日は議論が充実していますね。

---

次年度の運営計画

---

- 司 会 では来年度の運営計画について、議論をお願いします。訊いてみたいことや気が付いた事があれば、なんでも結構です。
- A 委 員 プログラミング講座は人気であるため、参加希望人数が増えたらどうするか、考えた方がいい。蔵書冊数目標 32 万 5 千に届くか。
- T R C 現在は、31 万冊である。

- A 委員 あと2年、なんとか目標達成できるか。
- F 委員 電子図書、見たいと思うが、IDとパスワード、全然わからない。
- T R C 図書館ホームページから登録できる。IDは図書カードの番号。
- F 委員 マニュアルなどはあるか。わかりづらい。
- T R C 利用案内等で紹介している。文章講座参加者の童話を、電子図書として貸し出せたらいいと思っている。
- B 委員 図書館サポーターとして、検討中。
- E 委員 図書館とホールがある施設なのに、サポーターも高校生・中学生、中高生が集まるイベントがない。中高生ターゲットの企画が少ないのではないか。
- J C D カルメラ音楽祭は中高生がターゲットであった。
- E 委員 子ども達は、学校から配布されたチラシを見ない。ボランティア活動は、学校から配られる。何のボランティアやりましたかという質問もある。中学生は言われた事しかやらない。仕事が終わったら、もう終わり。検討要素である。
- C 委員 図書館まつりでは、登録したのに3日間とも来なかった子どももいた。
- E 委員 やる子はやる。個性もある。
- C 委員 学習室を使う子を巻き込めると良い。
- E 委員 本は読みたいけど、家から近いT書店行って買ってしまう。アローブは遠い。中学生だけで来るには、大府中からは遠い。
- C 委員 この図書館には、ライトノベルが多く、それらは中高生に読まれているようである。だが、他にも読むべき本があると思う。そればかり読まれているのは問題では。
- T R C 分かってはいるけど、中高生には読書に対して照れがあるのではないか。
- E 委員 中学生には、学校で朝読(あさどく)がある。
- C 委員 図書館内文庫は奥にあるから、わかりづらい。
- G 委員 ボランティアはアローブで、を合言葉に、例えば一日館長、職場体験など次年度に向けて計画するのも良い。
- B 委員 至学館大学だけでなく、人間環境大学と連携したらどうか。
- T R C 開校当初、図書館へ情報交換に来てくれた。今後の連携を考えたい。
- J C D 駐車場の件、こどもまつりの時に雨で駐車場が満車になった。西側の駐車場を利用してほしい。図書館とホールのイベントですぐ満車になってしまう。
- T R C 12月4日の図書館まつり、苦戦中。講座募集では、50名中11名の参加。自分から本を読めるようになる絵本が好きになる企画である。参加

者にはプレゼントが配られる。オリジナルバックを制作した。

大 府 市 市長が4月に代わって、機構改革、文化スポーツ課の管轄に歴史民俗資料館が入る。連携を強めていきたい。学校教育課は、学校教育だけになる。疎遠にならないように、各学校との連携を強めていきたい。私たちの動きで出来る事がある。カルメラ音楽会とか、新しいもの、は指定管理者ならではのものです、直営では出てこなかったものだろうと思う。市の担当は、これから代わっていこう、現場はいいものを語り継いでいただくようお願いしたい。文化デザイン塾の企画にもあった様に、2年を1つと考えることも、行政では難しい。今日も真剣に語っていただいた事に感謝している。もっと良い施設になると思うので、引き続きよろしくをお願いします。

司 会 協議事項としては、全て終了した。閉会。